



第19回

まちだ国際交流パーティー

2月12日(日) ベストウェスタンレンブラントホテル東京町田

今年で第19回を迎えた「まちだ国際交流パーティー」、今年の入場者数は過去最多だった昨年の225名を凌ぐ249名となり、町田市の国際交流への熱心な取り組みが功を奏しているようです。

内訳は外国人としてフィリピン40、中国34、インドネシア4、ブラジル3、コロンビア2、インド2、ドイツ2、カナダ、カンボジア、台湾、ベトナム、ミャンマー、メキシコ各1名で13か国93名、日本人は111名、アトラクション関係者45名でした。

参加者の交流がスムーズに出来るようテーブルごとに自己紹介をし、アトラクションでは、チベットやモンゴルの踊りを披露し、参加者とともに記念写真を撮りました。もう一方のアトラクションでは日本伝統の阿波踊りに参加者も加わり、会場全体がまさに国際交流の熱気に満ち溢れました。

今年のパーティーも盛会裏に終えることが出来皆様に感謝する次第です。来年の20周年節目の記念パーティーの参加も是非お願い申し上げます。

国際交流部会 横川 京一



豪華な衣装と素敵な踊りを披露してくれました



南稔連の皆さんによる阿波おどり



最後に参加者全員で踊りました

ぼろんていえ

Volontiers! の由来：誘われたとき、頼まれたとき「喜んで！」と笑顔で応えるフランス語

町田国際交流センターではボランティアを中心に、日本にいる外国の方を支援したり、コミュニケーションの活性化をはかるなど、様々な活動を行っています。

国際交流事業やボランティアのお問い合わせは、町田国際交流センターまで（詳細▶7面）

INTERVIEW

KOKUSAI インタビュー

2年間お世話になりました。

一般財団法人 町田市文化・国際交流財団
事務局長 石井 章夫

2年間、町田国際交流センターのセンター長を務めてまいりましたが、4月より町田市民ホールでの勤務となりました。

在職中は、いろいろとお世話になりました。

町田国際交流センターは、1998年に「市民レベルの国際交流活動の中心としてさまざまな事業の計画」を目的に設立され、ボランティアを主体として外国人の支援・交流事業を行っています。

事務局の役割は、「外国人にとって暮らしやすい街づくりを目指すとともに、ボランティアの皆さんの活動しやすい環境づくりを整えること」だと思っています。

引き続き、そのことを職員に伝え、新しいセンター長に引き継いでいきます。

これからも、外国人にとって住みやすいまちづくりを行うため、町田国際交流センターに対して更なるご協力をお願いいたします。

また、来年町田国際交流センターは、設立20周年を迎えます。

皆さんが、今まで行ってきた活動を形にして残すことや記念式典や事業を行いたいと思っていましたが、引き継いでいただければ幸いです。

外国人の皆さんの笑顔とボランティアの皆さんの熱意により、充実した日々を過ごし、センター長としての職務を遂行できたことに感謝いたします、ありがとうございました。

センターでの2年間は、私にとって貴重な体験でした。これからもセンターの活動にかかわり、皆さんに愛されるセンターづくりに寄与していければと思っています。



町田市文化・国際交流財団
事務局長 石井 章夫

新任挨拶

一般財団法人 町田市文化・国際交流財団 足立 能仁

日頃より、一般財団法人町田市文化・国際交流財団の事業に対しまして、温かいご支援とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

このたび、2017年4月1日付で、町田国際交流センターに異動となりました足立でございます。

町田国際交流センターでは、「国籍や民族など異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていく」多文化共生社会構築のため、地域の外国人住民への支援、交流やおもてなし事業をボランティア会員の方々を主体に行っております。

2018年には、当センターが設立20周年という節目の年を迎え、地域レベルの国際交流を職員一丸となり積極的に進めてまいります。

また、2020年に開催される東京オリンピック・

パラリンピックを迎えるにあたり、町田国際交流センターの役割と必要性が増すものと考えております。

前任のセンター長が築いてきた基本方針を踏襲し、見習い、微力ではありますが、努力してまいりますので、会員の皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。



町田国際交流センター
センター長 足立 能仁



日本語教室部会ボランティア 干場 美代子 さん

Q: いつからボランティアをはじめられましたか？

A: 2016年4月からで、ちょうど一年になります。

Q: ボランティアを始めたきっかけはなんですか？

A: 玉川学園地区の社会福祉協議会でお手伝いを始めましたが、もう少し人と関わることをしたいと思いました。ボランティアにも関心があり、広報など注意して見ていたときに、日本語ボランティア基礎講座を知り、早速参加しました。

Q: 今の活動状況を教えてください。

A: 日本語教室部会で週一回、外国人の方の日本語の勉強のお手伝いをしています。今は中国の方々と活動しています。

Q: 活動の中で大切にしていることはなんですか？

A: 自分の置かれている立場をわきまえながら、できるだけ学習者に寄り添っていきたいと考えています。自分は微力だと実感しますが、おかげさに言うと“日本の窓口”になれたらいいなと思います。

Q: 楽しかったこと、うれしかったこと、つらかったことはどんなことですか？

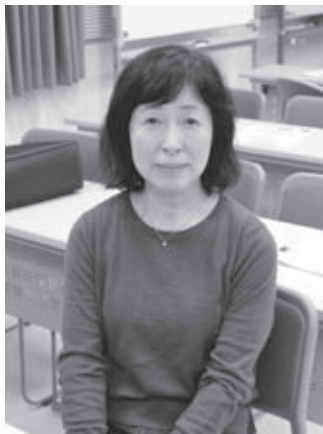
A: 手さぐりの中で、学習者と心がつながった！と思えるときなど手応えを感じます。終了後に「ありがとう。またね。」と言ってもらえたら、「こちらこそ ありがとう。」と、うれしくなります。

Q: ボランティア活動を始めてからご自身の変化などありますか？どんなことですか？

A: こんなに近く親しく外国人の方に接することができて、目からウロコがぼろぼろ落ちています。今まで遠い存在だった彼らが、すぐ隣にいるのですから。活動が日々もアクセントになっています。さらに勉強を続けることや、教室の一員として継続できるように体調管理まで気をつけるようになりました。

Q: これから活動をはじめようとしている方へ一言お願いします。

A: 私も迷いと不安のなか、スタートラインで何年も足踏みをしました。ボランティアをお考えの方、是非一步を踏み出してください。お仲間になりましょう！



干場美代子 さん



毎週学習者と接するのがたのしみとのことでした

第2回ブラッシュアップ講座

3月18日(土) 町田国際交流センター講習室

今回は、公益法人国際日本語普及協会の新野佳子先生をお招きして、「学習者から話を引き出そう」～対話による支援～というテーマで、ブラッシュアップ講座を開講いたしました。

自分がロンドンに行っているという設定で、英語で自己紹介からレストランでの苦情、交通事故の目撃証言から物事に対する意見を表現する等々どこまでできるかを考えながら OPI における判定を試みると、日ごろの学習者の立場に立ったレベルを感じることが出来ました。その上で、学習者によりそって最大限の神経を張り詰めて観察する力、そして相手の日本語のレベルに合わせて自分の日本語をコントロールする力の大切さを学びました。よく言われていることではありますが、直説法による対話の重要性として、媒介語で

どう表現するか考えるよりもその神経を学習者の発話の観察に費やすべきだとのお話も、納得の一言でした。

途中受講者からの質問で、文字の導入の話にもなり、ご自分の計画していた講座進行を、質問から急展開するという、まさに対話の実例を目の当たりにしたりもしました。

また、その日のテーマや成果を学習者の手でメモにする「おみやげ」を残すというお話に、目からウロコの受講者もいたようでした。

今回は今年度2回目の講座でしたが、参加者は日本語の会からの10人と MIFA から3人を含めて39人と、満席の盛況でした。今後とも、機会あるごとにスキルアップを目指していきたいと思った、講座の参加でした。

日本語教室部会 下山 健



新野佳子先生



たくさんのボランティアが参加しました。

春休みキッズ英語

3月29日(水)・30日(木) 町田国際交流センター講習室

“英語に慣れ親しむ”を目標に開催してきましたキッズ英語、今回も進級を間近に控えた小学生たちが集まってくれました。

講師のセリロ キアムコ フェルナデスさんは、わかりやすい英語をリズムにのせて話したり、カードを使ってグループで遊んだり、様々なアクティビティーを取り入れてくれ、子どもたちはとても楽しんでいました。

事務局 小川 剛彦



英語のカードゲームをしました

子ども教室 国際版画美術館体験学習

3月11日(土) 町田市国際版画美術館

子ども教室では、4年生以上の子ども11名、ボランティア11名とともに、町田市国際版画美術館で木版画体験をしました。

美術館の工房で職員の方から説明を受けたあと、すでに用意されていた4種類の絵柄の版木からそれぞれ好きな絵柄を2種類選び、真剣な表情で和紙に摺っていました。(一番人気は歌川広重の富士山でした)

そして慎重に紙をはがし出来ばえを確認していました。

ひとり摺りあがるとに歓声が上がり、お互いに楽しそうに批評していました。

みんなとてもうまく摺りあげることができ、うれしそうに家に持ち帰りました。

子ども教室 北村 佳子



バレンで擦ります。



上手にできました！

外国語サークル新年度活動開始！

今年度も、下記の6言語11サークルに多くの受講者が集いました。

『英語4サークル(基礎A・基礎B・中級A・中級B)、中国語(入門・初級)、韓国語(入門・初級)、スペイン語、フィリピン語、タイ語入門』。

各サークルではテキスト、プリント、ビデオ等を使った語学学習の他に各国の生活習慣・文化を理解する為、料理、着付け、歌、踊り等、各サークル独自の

プログラムも加えた楽しい活動を目指しています。

どのサークルも4月から来年2月まで、毎月2回・全20回の開催となっています。注) 8月は活動休止。

全20回の活動を通じ、外国人との会話、国際交流活動、外国人支援活動に一步踏み出す、きっかけになることを願って活動しています。

見学者大歓迎、いつでもお出で下さい。

外国語部会コーディネーター 石崎 洋一



英語中級Aサークル



中国語入門サークル

@Japan 私と中国 「学習」^{注1} と「勉強」^{注2}

私は、外国から来た子どもたちに日本語を教える「子ども教室」のボランティアに参加しています。

「どうして日本の子どもは勉強しないの？」このように質問してきたのは、中国・大連出身、日本の公立学校に通う中学2年生のA君です。A君は1月から日本に定住し、7月に国立の付属学校の編入試験を控えていました。あるとき私が、「中国の学校は日本と比べてどうだった？」と質問しました。するとA君は、「宿題がすごく多くて、みんな放課後も土日もずっと勉強していた。先生が厳しくて、宿題を忘れると授業に参加できなかったし、テストの成績が良い子だけが評価された。」と答えました。今度は「日本の学校はどう思う？」と質問しました。すると、「宿題が少ないし、先生も優しい。しかも技術・家庭科といったいろんな勉強ができるし、放課後に部活動がある。」と、日本の教育に良い印象を持っているような答えが返ってきました。しかし、「だけど、日本の子どもたちは宿題を平気でやってこなかったり、休み時間に遊んでいたりで、全然勉強していない。」と答えていました。どうやら日本の子どもが一生懸命勉強しないことが不思議で、かつ不満を抱いているようでした。

日本の義務教育は、公立学校と私立・国立学校で大きく差があるのは現状です。しかし、総じて中国と比べて日本は非常にゆとりある教育だと思います。だから今、勉強をする意味が分からず、勉強をしない子どもが増えたことが問題になっています。反対に中国（主に都市部）では、良い学校・良い職場に入り、良い人生を送ってほしいという親の願いから、子どもたちが勉強を寝る間も惜しんで一生懸命がんばっています。ただ、そのため勉強の出来が評価の全てとなっており、子どもに大きな重圧がかかっているという現状があるのです。私は、隣同士の国なのに教育という観点から見るとこんなにも違っている、ということに気づき、衝撃を受けました。

「学習」と「勉強」。同じ意味なのに、実際は全然違う。にもかかわらず、中国でも日本でも、自分の国の中だけにいると、自分の受けている教育が全てだと思わざるをえません。だから父親の教育方針で日本に呼ばれたA君が今、中国と日本の勉強の違いや周りの学ぶ姿勢の差に苦労するのも仕方ないことなのです。しかし、彼が今のうちにこの違いに気づけたという点で、とても良い経験していると思います。今日、両国共に、自分たちの国の繁栄を願い、一生懸命子どもたちに教育を行ってきています。けれども子どもたちは今、勉強する意味を見いだせず、勉強に良いイメージを持っていません。だからこれからは、子どもたち自身が日本・中国それぞれの教育の違いや勉強に対して思っていることを知り、お互いに「どうして勉強しているのか」について意見交換しながら考える、そんな関係を両国で築いていきたいと思います。

子ども教室 杉本 万由

注1 中国語で勉強の意

注2 中国語で無理矢理の意



子どもの支援をする杉本さん▶

まちだ市民大学HATS「環境講座」公開講座 「豪雨にそなえる流域思考の水土砂災害」

地球温暖化の影響で、近年ゲリラ豪雨や台風の直撃等による水害や土砂災害が増えています。本格的な梅雨のシーズンを前に、近年各地で多発している自然災害について語っていただきます。

- 【講 師】慶應義塾大学名誉教授 岸 由二 氏
【日 時】2017年5月26日(金) 19:00～21:00
【会 場】町田市生涯学習センター 7F ホール (町田市原町田 6-8-1)
【対 象】どなたでも
【定 員】100人 (申込順)
【申 込】町田市イベントダイヤル (年中無休)
募 集 期 間: 5月9日(水) 正午
～ 5月23日(火) 19時まで
電話での申込み: 042-724-5656
受付時間: 7:00～19:00
ウェブでの申込み: 町田市ホームページのイベント
申込システム「イベシス」から
24時間受付
※イベントコード「170509B」



問 い 合 せ

町田市生涯学習センター

〒194-0013 町田市原町田 6-8-1 TEL 042-728-0071 FAX 042-728-0073
休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日) および年末年始(12月29日～1月3日)



ホームページをご覧ください!!

アドレス <http://www.machida-kokusai.jp>

新しい情報がいっぱい!!

町田国際交流センターのホームページでは、センターが開催する講演会や外国人向けの相談会のお知らせのほか最新の情報を提供しています。

また外国語版のページでは、「日本語教室」など、外国人の方々が地域で暮らすのに必要な情報を英語で提供しています。

今後も楽しいコンテンツづくりを目指していきます。是非、ご活用下さい。

(財)町田市文化・国際交流財団
町田国際交流センター

〒194-0013 東京都町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム4F
TEL 042(722)4260 FAX 042(722)5330

<http://www.machida-kokusai.jp>
E-mail: info@machida-kokusai.jp

事務局からのご案内・募集

お問い合わせ：一般財団法人 町田市文化・国際交流財団 町田国際交流センター TEL.042-722-4260

国際協力のための講演会 シリアの今、私たちにできること

～ボランティア団体 シリアンハンドの活動～

内戦により何十万人の死傷者が出ているシリア。現在のシリアはどのような状態なのでしょう。シリアの現状とシリアンハンドの活動をお話していただき、遠く離れた日本から私たちに何ができるのか、一緒に考えていきます。

お招きするボランティア団体「シリアンハンド」は、シリア国内のシリア人女性たちに仕事の提供をサポートする非営利団体として設立されました。現在は医療器具の提供や防寒具の発送、食料支援など、多岐にわたりシリアへの支援活動を行っています。

講師：Hussam Zaineh ハッサン ザイネ (シリアンハンド)
Imad Albahri イマド アルバフリ (シリアンハンド)

日時：2017年6月3日(土) 14時～16時

会場：町田市民フォーラム 4階 第一学習室 AB

参加費：無料

定員：40名(先着順)

申込方法：ホームページ、FAX または町田国際交流センターの窓口でお申し込みください。受付確認の連絡は致しません。直接会場にお越しください。

HP <http://www.machida-kokusai.jp> FAX 042-722-5330



3000 Marwanah Refugee Camp, During the Crisis, February, 2017



知っているようで知らないモンゴル

～大草原・大砂漠・大森林などで知られる雄大で自然豊かな国・モンゴルのいま～

ジャイカ

第7回 JICA青年海外協力隊・帰国隊員による最新情報報告会

日本の角界に多くの強豪力士を輩出していることでお馴染みのモンゴル。

フビライ・ハーン(第5代ハーン)の治世下、13世紀には二度の蒙古襲来(元寇)もありました。

そのモンゴルは現在156万平方キロメートル(日本の4倍)の国土に約300万人の人口を擁して発展を続ける中、首都ウランバートルに人口が集中するなど新たな問題に直面していると言われています。

そこで今回は講師より現地活動を通して見えたモンゴル国の今を映像と共に詳しくお話頂きます。

講師：北川 友貴氏 東京都杉並区在住。

2014年10月～2016年10月 青年海外協力隊員としてモンゴル国に滞在。理学療法士として国立第三中央病院でリハビリテーションなどを担当。首都ウランバートルを中心に活動した。

日時：2017年6月18日(日) 14:00～16:00(開場 13:30)

会場：町田市民フォーラム 4階 第2学習室 AB

参加費：無料

申込期限：2017年6月10日(土)

申込方法：ホームページ、FAX または町田国際交流センターの窓口でお申し込みください。受付確認の連絡は致しません。直接会場にお越しください。

HP <http://www.machida-kokusai.jp> FAX 042-722-5330

